“光り輝く”五輪メダル　あと１年で歓喜の「渦」

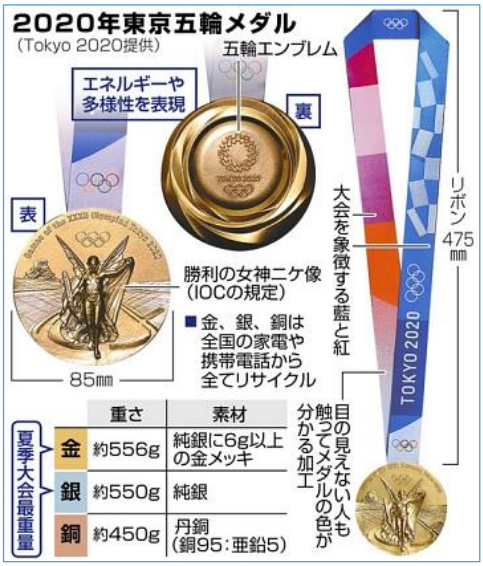
東京五輪の開幕まで１年となった 7/24 日、大会組織委員会と東京都は都内で記念セレモニーを開き、大会で授与するメダルを披露した。五輪マークと大会エンブレムの周囲を渦のような曲線で囲むデザインで、大阪市出身のデザイナー：川西純市（51）さんが「光や輝き」をテーマに考案した。

直径 85 ミリで、厚みは最大 12.1 ミリ。重さは金が 556 グラム、銀が 550 グラム、銅が 450 グラム。金と銀は夏季大会で史上最重量となった。渦のデザインは立体的な形状で、どの面から見ても美しく輝いて見える。反対側の面は、各大会共通で女神などが描かれている。宮田亮平文化庁長官を座長に、シドニー五輪女子マラソン金メダリストの高橋尚子（本社客員）さんらでつくる審査会で選んだ。

全国の自治体や企業などが、不要になった小型家電を集めて提供した金属で製造される。組織委員会が「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」と名付けて 2017 年 4 月から今年 3 月まで募り、中部地方の自治体や企業も参加した。五輪用に約 2,500 個を製造、パラリンピック用のデザインは今後発表される。

メダルを首から下げるリボン、木製のメダルケース、入賞者に渡される表彰状も発表された。表彰状には、岐阜県特産の美濃手すき和紙が使われる。

千代田区であった記念セレモニーでは、国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長が「1 年後、日本は歴史をつくるだろう」などとあいさつした。東京五輪を目指すアスリートも参加し、重量挙げの三宅宏実（33）選手は「色味が深い。過去二大会のメダルより、比べものにならないくらいきれい」。バスケットボール日本代表の渡辺雄太（24）選手は「光り輝いている。首にかけたいです」と笑顔を見せた。　　7/25「中日新聞」



❤ Happy Birthday　９／５‥川合　聖奈さん　９／５‥松森　蓮　君